

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学 校 名 名古屋市立丸の内中学校
(※正式名称を記載)

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☐ 小学校 ☐ 小中一貫^{※注 1}
☒ 中学校 ☐ 中高一貫^{※注 2} ☐ 高等学校
☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校
☐ 特別支援学校
☐ その他（例：小中高一貫 _____）

※注 1 義務教育学校を含む ※注 2 中等教育学校を含む

所在地 〒460-0001
愛知県名古屋市中区三の丸一丁目 9 番 2 号 _____

E-mail marunouchi-j@nagoya-c.ed.jp _____

Website www.marunouchi-j.nagoya-c.ed.jp/ _____

幼児児童生徒数 男子 50 名 女子 40 名 合計 90 名
幼児・児童・生徒の年齢 12 歳～15 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800 字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、「生きる力を育む ESD」を活動テーマとして、様々な ESD 活動を系統的に見越したカリキュラム編成をしている。

ESD を様々な「考え方」や「生き方」に出会い、「世界観」や「人生観」を広げるきっかけと捉え、ESD の実践を通して生きる力の育成を目標とした。

具体的には、『地域の教育力』を柱に、①福祉に係わる活動、②国際理解に係わる教育、③伝統文化に係わる学習を行った。

① 福祉に係わる活動

・高齢者疑似体験学習

中区社会福祉協議会より講師を招き高齢化社会・福祉社会について講演をしていただくとともに、高齢者疑似体験用具を身にまとい、高齢者や障がい者の日常生活を疑似的に体験した。

・車いす実習（車いすの乗り方と介助法の実習）

「AJU 自立の家」より講師を招き、車いすの乗り方や介助の仕方について学習した。街中の段差や歩道の駐輪自転車、地下鉄の改札や乗り降りなど、様々な場面を想定した実習を行った。

・福祉施設での体験学習

少人数グループで市内8箇所の高齢者福祉施設に分かれ、介護を中心とした体験学習を2日間にわたり行った。高齢者の話し相手になったり、事前に準備していった出し物やゲームを発表したりし、高齢者の方々とのかかわり方を体験的に学んだ。

② 国際理解に係わる教育

・異文化理解教育

学区隣接地域にある「名古屋国際センター」から外国人講師を招き、母国紹介をしていただくことによって、多文化共生の理解と意識化を図る活動を行った。

・国際協力の在り方について

JICA を訪問し、青年海外協力隊の方より発展途上国の現状や、日本の国際協力の具体的な取り組みを紹介していただき、日本と途上国とのかかわりについて理解を図るとともに、広い視野で物事を考える学習を行った。

③ 伝統文化に係わる学習

・お茶の学習（全学年）

学区在住のお茶の先生を講師として招き、お茶の作法だけでなく、掛物や茶器、茶室の意義などを学んだ。

・伝統文化学習

「お茶の作法」、「能楽」、「友禅染」の3分野をテーマとした講座を開設し、各自の興味関心に基づき選択して伝統文化について学んだ。「本物の芸や技」を目で見て耳で聞き、芸人や職人とかかわり、実際に行うことを通して、伝統文化の知識を深めた。



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

JICA 中部 愛知国際交流協会

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

総合的な学習の時間、社会科、音楽科、英語科、道徳、保健体育を含め、年間延べ100余名に及ぶ「その道の達人」を講師とした授業を行っている。また、総合的な学習の時間については、テーマを「福祉」「国際理解」「伝統文化」「健康・安全」とし、3年間で系統的に見越したカリキュラム編成をしている。

【ESDカレンダー（年間計画）】

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
1年	青年海外協力隊の取り組み (JICA訪問)			伝統文化を学ぶ (学習)				高齢者疑似体験学習 (体験学習)		お茶の作法を学ぶ (体験学習)		
2年	伝統文化(能楽、友禅、お茶)を学ぶ (見る・聞く・調べる)						異文化を学ぶ(NIC) (外国人講師による異文化学習)		福祉施設実習 (体験学習)			
3年	我が街の伝統文化を探る (お茶・能楽・友禅)			能楽鑑賞 (能楽堂)				自分たちにできる国際協力 (交流活動)				

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

P D C A サイクルの考えに基づき、「計画→実践→評価（点検）→改善」を繰り返し実施している。

3年間で系統的に編成したことにより、全職員が活動内容について共通理解することができている。また、「地域の教育力」を柱としているため、年々地域とのつながりが深まり、より充実した学習にすることができている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

学期末や年度末において、教職員の自己評価と学校の取り組みに対する評価を実施している。また、学校評議員による学校関係者評価も実施し、反省点や改善点については、全職員で協議し改善につなげている。

【成果】職員一人ひとりが、取り組みを見直すことができ、より充実した活動にすることになっている。

【課題】評価方法に改善の余地がある。生徒と職員の評価が主だったが、保護者や地域に広く情報を発信し、様々な角度から評価していただくことで、多角的な視点や助言を得ることができると考える。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

月に1度の学校便りや、毎週1度の学年便りで活動内容を保護者に発信している。また、PTA評議員会や学校評議員会においても、活動内容を説明するとともに、写真や映像を紹介し学校の取り組みを理解していただいている。このような取り組みを通して、地域や保護者からの理解と信頼を得ることができていると考える。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

愛知教育大学を拠点とした県内各校の実践を、研修会等を通して学んだ。研修会後には、全職員に周知するとともに、本校での取り組みに生かすことができることはないか協議している。

地域諸団体(警察署や消防団、福祉施設等)と連携をとり活動内容を吟味したり、調整したりしている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

平成29年度は、実施していないが、平成30年度については、以下の取り組みを予定している。

- ・ ジャパンアートマイル(JAM)国際協働学習に参加予定。

この学習に参加することにより、世界の国や地域、子どもたちとつながるきっかけとしたい。さらに、31年度以降、より深い交流や協働になるよう計画していきたい。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

各活動において、「調べる」→「体験する」→「まとめる」→「発信する」というサイクルで学習を進めた。その成果として、様々な分野の基礎的な知識を学ぶとともに、まとめたものを発信し合ったことにより、多様な見方や考え方を認め、尊重する態度を育てることができた。また、体験的に学ぶことで、考え方や生き方に直接触れることができ、自分自身の生き方について考えるよい機会となった。

（3）平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年	青年海外協力隊の取り組み (JICA訪問)			伝統文化を学ぶ (学習)		アートマイル (交流・体験学習)		高齢者疑似体験学習 (体験学習)			
2年	伝統文化(能楽、友禅、お茶)を学ぶ (見る・聞く・調べる)					異文化を学ぶ(NIC) (外国人講師による異文化学習)		福祉施設実習 (体験学習)		お茶の作法を学ぶ (体験学習)	
3年	我が街の伝統文化を探る (お茶・能楽・友禅)			能楽鑑賞 (能楽堂)		自分たちにできる国際協力 (交流活動)					

1年生において、「アートマイル」に参加予定。他の活動については、例年通りに計画している。